

児童一人一人の基礎的・基本的な学力の定着を目指した複式学習指導法の工夫 ～言語活動の充実とNIEの積極的な活用を通して～
(指定4年目の実践)

曾於市立大隅南小学校 校長 大庭安孝

1 研究の重点

言語環境を整え、言語活動の充実を図る。

- ・文章を読み取る能力の向上を図る。
- ・新聞作成を通して「まとめ、伝える」能力の向上を図る。
- ・新聞投稿など児童の表現意欲を高める。

2 NIE実践指定4年目の推進方針

(1) 研究の仮説

仮説1 (授業での実践)	学習することを明確化して課題を確かに読み取る場を設定することで、新聞記事を効果的に活用し、自分の思いや考えを表現することができるのではないか。 (授業の実践)
仮説2 (家庭との連携)	家庭との連携を図り、新聞記事や投稿する内容について家庭でコミュニケーションの場を設定することで、児童の表現活動への意欲が向上し、表現力を高めるのではないか。 (ファミリーフォーカス)

(2) NIE実践指定4年目の研究視点と計画・方法

効果的な複式学習指導とNIEの積極的な取組の推進 (学習目標の達成に向けた言語活動としての新聞活用の研究とその効果の実証)	
読む 考える	○複式学習指導の在り方とNIE実践による学力向上研究 ・1・2年国語科複式
表現 語彙力	○ 情報を読み解く。→自分の考えを明確にする。→発信する。 ○ 目的意識・相手意識を明確にする。 ・授業のまとめの手段としての新聞作成（はがき新聞 等）
環境 づくり	○複式学習における児童の主体的な学習を進める学習掲示 ○新聞記事に対する思いや考えの掲示（週末NIE課題：親子での取組） ○新聞記事を閲覧・活用できる場の設定（新聞コーナーの設置） ○新聞に掲載された投稿作品や学校関係記事の掲示（学習への意欲喚起）

3 NIE実践の実際

(1) 授業実践

ア 1・2年国語科複式学習（研究の重点：学習目標達成への新聞の有効な活用）

学 年	1 年	2 年
単 元 題 材	かたかなをかこう（光村図書）	かたかなで書くことば（光村図書）
本 時 学 習 目 標	片仮名の語を正しく読んだり、片仮名で書く語を使った文を書いたりすることができる。	片仮名で書く言葉の種類を知り、片仮名を使った文を書くことができる。

展 開	1 本時の学習内容を確認する。 2 既習の学習内容から片仮名で書く言葉を見つけ、カードに書き、読む。 3 学習のめあてと本時の学習の流れを確認する。 4 片仮名で書く言葉を集めてカードに書く。 *新聞活用 5 集めた片仮名を読みながら表記の確認をする。*長音・拗音・促音の読みや表し方の確認 6 学習のまとめをする。	1 本時の学習内容を確認する。 2 片仮名で書く言葉を集めてカードに書く。*新聞活用 3 集めたカードを発表する。 4 学習のめあてと学習の流れを確認する。 5 集めたカードの仲間分けをする。 * 4種類に分ける 6 学習のまとめをする。
N I E の視点	様々な種類の片仮名言語を集めるために、新聞記事を活用し、集めた言葉をカードに書くことで片仮名の表記に慣れ親しむ学習とする。	多くの片仮名言語を集めて、種類分けの活動をしやすいするために、新聞を活用して言葉集めをする学習とする。

イ 5・6年国語科複式学習（研究の重点：説明的文章の読み取りのための新聞活用）

学 年	5 年	6 年
単 元 題 材	事例と意見の関係をおさえて、自分の考えをまとめよう。（光村図書）	筆者の考えをとらえ、自分の考えと比べて書こう。（光村図書）
本 時 学 習 目 標	「想像力のスイッチを入れよう」という言葉に着目して筆者の考えを読み取り、それに対する自分の考えをもつことができる。	筆者の考えている「新しい暮らし方」と自分の考えを比べて、同じところや違うところを発表し合い、考えや見方を広げることができる。
展 開	1 本時の学習内容を確認する。 2 前時に読んだ新聞記事の内容を確認する。 ※ 新聞活用 3 想像力のスイッチとは何か確認する。 4 想像力のスイッチを入れてもう一度新聞記事を読み、変わった点を書く。 5 筆者がなぜ「想像力のスイッチを入れよう」と主張しているのか考え、自分の考えをもつ。 6 発表する。 7 ふり返る。	1 本時の学習内容を確認する。 2 筆者の考えを確認する。 3 自分の考える未来の暮らしを80字程度にまとめる。 4 自分の考える未来の暮らしを2つの観点に沿ってまとめる。 ※新聞活用 5 自分の考えと筆者の考えを観点に沿って比較する。 6 発表する。 7 ふり返る。
N I E の視点	新聞やSNSなどの報道記事の活用を通して、どのように向き合っていけばよいかを筆者の考えと比較しながら自分なりの考えを深めていく学習とする。	未来の暮らしを想像する参考資料として、新聞記事や書物を活用して自分の考えをもち、筆者の考えと比べながら、考えや見方を広げる学習とする。

ウ 授業実践を通した「新聞記事」活用効果

学習目標を達成するための新聞記事の有効活用を、授業実践を通して研究してきた。授業

実践を通して、教材研究の充実による学習目標・内容と新聞記事内容の精査が重要であることと、記事の活用においては、学習転換の提示する場（タイミング）の視点が重要であることが明らかとなった。N I E実践の留意点は、新聞を「教える」ではなく「有効活用して」学習目標を達成することであることを基本として学習展開を考えていく必要がある。

本校のN I E実践指定1年目から4年目までの授業実践で、新聞記事の活用を図った（提示した）学習過程は次のようにまとめられる。

主な学習過程		有効な「新聞（記事等）」活用	活用した授業実践
導入	振り返る	情報や既習を「知る」「収集する」	3・4年社会科実践（H27・28）
	関心をもつ	課題を「知る」「調べる」「想像する」	1・2年国語科実践（H27）
	つかむ・見通す	記事を「比べる」「関係づける」 学習方法を「知る」	
展開	調べる	情報を「収集する」	3・4年社会科実践（H28） 1・2年国語科実践（H29）
	考える	事実を「調べる」	5・6年国語科実践（H29）
	高める	記事を「読む・読解する」	5・6年家庭科実践（H26）
	広げる	「比べる・関係づける」	5・6年国語科実践（H27） 1・2年国語科実践（H28）
		共通点やちがいを「思考・判断する」	5・6年国語科実践（H27・29）
		考え方を「組み合わせる」	1・2年国語科実践（H27）
		「見方をかえる」	5・6年国語科実践（H27）
		「創る・つくる」 「批判する」「評価する」	1・2年国語科実践（H26）
終末	まとめる	記事や考え方を「関係づける」	5・6年国語科実践（H26）
	振り返る	「組み合わせる」	
	いかす	「深める」「評価する」	5・6年国語科実践（H28・29）
		自己を「振り返る」 新たな目標や課題を「見通す」	

（２）新聞活用の日常化を図った取組

日常的に新聞への関心を深めるために、「今日のトップニュース」というコーナーを設け、家庭や学校の新聞コーナーから友達に伝えたいニュースを選択し、朝の会で発表している。また、それを新聞コーナーにも掲示して他学年の児童にも見てもらえるようにしている。



（３）はがき新聞を活用したまとめ

普段の授業において、「5W1H」を意識させるように読み取らせたり、書く活動に取り組ませたりしている。国語の授業を中心にサイドライン・アンダーラインを引かせながら正しい読みをさせ、全体で確認する場を設けるようにしている。

また、書く活動では「はがき新聞」の活動に取り組ませるようにした。主に単元のまとめ段階で活用し、用紙を三分割する作り方を基本として、絵や文で分かったことを見てくれる人に伝えることを意識させながら学習に生かしている。



(4) P T A活動に位置づけたファミリーフォーカスの取組



これまで4年間継続して、ファミリーフォーカスに取り組んできた。本年度は活動の目的を書く力をつけるだけでなく、親子のコミュニケーションを深めることもねらいとしてファミリーフォーカスの取組をP T Aの重点課題として位置づけ、家庭との連携を深めるようにした。

きょうだいで一つの記事を選択し、それを週末に持ち帰って親子で記事をもとに会話ができるようにした。保護者からは、「1つのことについて話すことが多くなった。」「言葉の意味を子どもに教えたり、写真と一緒に見て感想を言い合ったりできた。」といった成果が上げられている。

提出された課題は担任がすぐに目を通して、5 W 1 Hで記事を読み取れたかを添削し、必要に応じて修正させた。その後は校内に掲示し、「互いを認め合う」場となるようにした。

(5) 新聞コーナーの充実

児童が新聞を日常的に活用できるように、新聞コーナーを設置した。新聞は毎月2社ずついただいているが、子ども向けの新聞がない場合は、学校予算で購入している。

新聞コーナーへの関心を高めるために、クイズコーナーを設け、新聞の見出しやリード文を読んで解答できるように工夫した。こ



れにより、新聞コーナーで記事を読む姿が度々見られるようになった。また、授業でも活用しやすいように新聞は1週間分をつねに見やすいようにし、古い新聞もいつでも使えるように種類ごとに保管している。さらに、職員室にはその日の朝に新聞が見られるように、テーブルに新聞を広げておき、気になる記事はすぐに活用できるようにするなど、職員の新聞活用の意識も高めるように工夫した。

4 N I E実践指定4年目を経た成果と課題

成果	○ この4年間で新聞が子どもたちにとって身近な存在となった。調べ学習の教材としても自然と選択肢に入ってくるなど、新聞活用の意識が高まった。 ○ 本年度の研究テーマ「児童一人一人の基礎的・基本的な学力の定着を目指した複式学習指導法の工夫」を進める上で、N I E実践は授業研究の充実につながった。特に言語活動と資料活用は充実してきたと感じている。 ○ 家庭との連携を図る上で、新聞がコミュニケーションツールの役割を果たし、親子の会話が増えたり親子共に社会に目を向ける意識が高まったりしたという成果が得られた。 ○ 職員が授業の教材として新聞を活用することが増え、生きた教材として子どもにとっての学びに生かせるようになってきた。
課題	○ 新聞を活用した学習がどのように学力向上につながったか、実態を把握することが困難であった。より具体的な学びの成果を把握することで持続可能な取組となる。 ○ 次年度以降は、新聞を使える環境を整えることが困難となる。学校予算やPTA予算など新聞を今後も活用できるように検討を進めていく必要がある。 ○ 子どもたちの実態として、語彙力が十分に備わっていないという課題がある。新聞の中から語彙や豊かな表現を獲得し、語彙力やそれを用いて表現する力を身につけさせる上で新聞の活用の在り方を見直していかななくてはならない。